

れである。かんだかい警告の声をひびかせながら、ゆっくりと右岸の斜面を登っていった。

2 mの小滝が出てきたので、直登する。左俣では噓一ともいうべき滝だった。

しばらくしてまた猿に会う。今度は1頭きりで、尾根の上のトチの木に隠かっている。先ほどの群れと別れてから5分程しか経っていない。このあたりでみかける猿としては大きな方である。先ほどの群れの一部なのか、それともハナレザルなのか。距離があったこともあるが、逃げようとしなかった。

9:00二俣に着く。林道は左沢ぞいに入っているが、右沢方面にも植林地は広がっているようだ。左沢にルートをとる。

9:20沢は平凡なままでまた2つに分かれた。よっぽどこで帰ろうかと思ったのだが、やはり計画通り右沢の下降をやろうと思い直して、遡行を続ける。

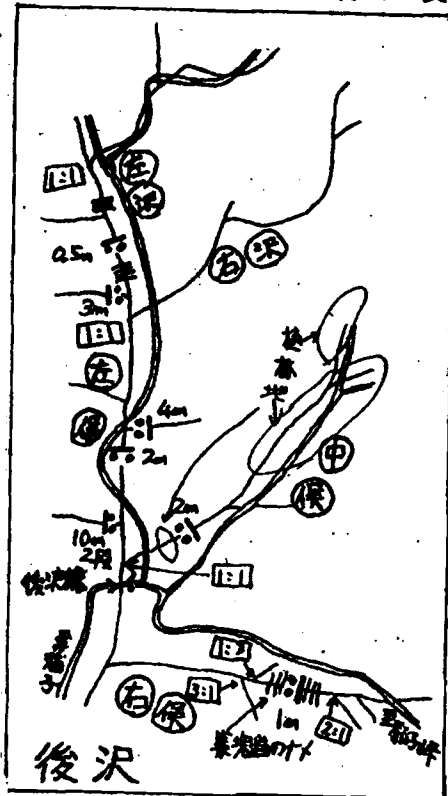
9:30沢ぞいの林道は終点となったが、植林地はまだ奥へと続いている。沢の方はというと、これはもう細々とした流れでしかない。これはもうここまでと、右手の斜面を登り、尾根を越えて右沢の下降に移る。

10:00右沢の下降開始。右沢は全く平凡で、滝1つかからないままに15分で二俣まで下ってしまった。あとは林道に上がって、後沢橋をめざす。

帰途、またまた猿の群れに出会ってしまった。場所は今朝がたとほぼ同じ所である。11頭が視認できた。断定はできないが、朝方会ったのと同じ群れではないかと思う。トチの実やドングリを一生懸命食べていたようだ。

(記・

[タイム] 後沢橋(8:35)→右沢出合(9:00)→
左沢終了(9:30)→右沢下降開始(
10:00)→下降終了(10:15)



後沢中俣

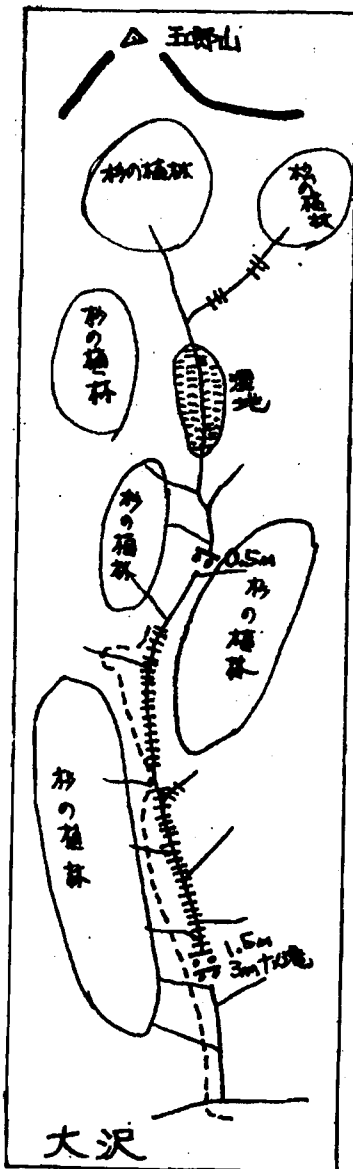
1983年9月18日

10:30遡行開始。出だしは晴い樹林帯の中

である。こちらの沢には伐採の手が及んでいないのかと思って登りはじめたのだが、すぐに明るい植林地となる。

2mの滝があって、直登するがあとはまた平凡。左岸には林道も出てきた。30分程遊行して二俣となった所まで行って引き返す。 (真 文)

[タイム] 後沢橋(10:00)→遊行終了(11:00)



後沢右俣

1983年9月18日

11:20遊行開始。右俣にそった樹林帯では檜の木の抜きざりが行なわれている。この沢も平凡。ただほかの後沢流域の沢とは違って、ずっと樹林帯の中であった。30分で種子部落と七ヶ宿を結ぶ林道に出て遊行を終える。

[タイム] 出合(11:20)→遊行終了(11:50)

大沢

1983年10月29日

朝方天候が一時良くなったので、軽い沢登りを楽しもうと茂庭に向かっていたら、途中から小雨が降ってきた。引き返す気にもならず、雨具をつけて大沢をめざす。

板谷沢登り林道入口に車を止めて、大沢出合へと歩く。10分程で出合着。右岸にだいぶ荒廃の進んでいる林道があるので、しばらくはそれをたどる。沢登りの兩岸にはスギやアカマツが植林されている。

林道終点から沢に入る。すぐにナメも終わり、ヤブコギの沢登りとなる。瀬地の中を沢が流れている所を